

八月十日海戦報告

目録

一、聯合艦隊戦闘詳報 第八号

一、三笠隊四面詳報 (三笠隊員名簿及三笠隊員
傷者名簿附詳表) 合六

一、朝日第十回戦闘詳報

一、敷島戦闘詳報

一、左 概報

一、富士戦闘詳報

一、右 概報 (片岡長官報告)

一、日進春日戦闘詳報

一、日進戦闘詳報

一、春日戦闘詳報

一、八重山戰鬥詳報
 一、第三戰隊戰鬥詳報 第五号
 一、八雲戰鬥詳報 第四号
 一、浅間戰鬥詳報
 一、笠置戰鬥詳報
 一、千歲戰鬥詳報 第五号
 一、高砂戰鬥詳報
 一、第六戰隊戰鬥詳報
 一、明石戰鬥詳報
 一、須磨戰鬥詳報
 一、第五戰隊戰鬥詳報
 一、橋立戰鬥詳報 第六号
 一、招島戰鬥詳報

0471

一 鎮遠戰鬥詳報
一 島海報告
一 赤城戰鬥報告
一 廣野戰鬥報告
一 黃海海戰報告
一 聯合艦隊戰鬥詳報

第八號

0472

0473

司長
印

明治二十七年八月廿
四島沖於是

戰鬪詳報

副官
印

軍艦三笠

明治二十七年八月廿五

0474

敷島第5号の旗

東郷

司令長官

参謀長

参謀

副

雷

八月十三日進出

八月十日戦闘概報



本艦ハ例ノ如ク第一戦隊ハ四番艦トナリ三笠(一)朝日(二)
 富士(三)春日(五)日進(六)八重山(七)加古(八)ト共ニ旅順
 港封鎖監視ノ任務ニアリテ円島附近ニ航中
 午前敵艦隊脱出渤海灣ニ向フノ報ニ接シ
 十時遇岩ノ東方ヨリ漸次南下シ南西ノ方向ニ
 進航シ午後零時二十五分頃西方ニ當リ敵艦隊
 ノ老鉄山南面ヨリ東進セントスルヲ見ルヤ直ニ觸
 接セント欲シ十四海里速カトナシ漸次之ニ近ツキ
 零時五五分旗艦ニ倣ヒ戦闘旗ヲ翻シ一時六
 分一五五六千米突ノ遠巨離ニアリテ春日發砲

敷島第5号の旗

ヲ開初シ之レヨリ全航及反航ノ針路ヲ操リ一五二
 千乃至四百米突巨離ヨリ七時間余ノ長ニ互
 リ互ニ砲戦セリ敵艦隊ノ陣形ハ初メ單縦陣
 ニシテ

ツエセヨシナ
 レト昇ガン
 ガムリー
 ノヒツ
 アスコリット
 セハストガリ
 レスウート
 ガムタイワ
 アスコリット
 アコ
 駆逐隊

左側ニ駆逐艦六七隻ヲ伴ヘ針路ヲ約東南東
 ノ方向ニ取リ我監視ヲ破リ飽迫封鎖ヲ脱出セ
 ントスル者ノ如ク見エタリ今二時彼我反航ノ隊形
 トナリ敵艦アスコリットド我砲彈ヲ受クルヤ彼ノ巡洋
 艦隊ハ倉惶陣形ヲ變シ非戦闘側ニ位置シ

0476
 0476
 0476

驅逐隊 〇〇〇〇 驅逐隊 〇〇〇〇
 如クナレリ六時敵ノ展艦ボルトリ既
 ニ數彈ヲ受ケ前續艦ト遠サル六時三十分敵
 六尹彈本艦左舷後部將官室ニ中リ公室ヲ破
 壞ス六時四十分頃敵ノ嚮導艦ツザレウイ子ノ數
 彈ヲ受ケ右舷ニ傾斜ヲ始メ直ニ左舷ニ迴頭
 之ヨリ敵ノ隊形乱レテ各艦混乱ノ状態ヲ極
 メ而シテ我ニ對スル砲火大ニ衰フ公時我艦隊
 ノ發射益益烈ヲ極メ就中ロト自甘シノ如キハ
 目標ノ中心トナリ砲彈破裂ノ黒烟ニ掩ハレ時々艦
 形ヲ認ムル能ハサルニ至ル時日没シ我驅逐艦
 隊及艇隊突進ヲ始メ八時十分打方ヲ止メ南東
 ニ操針シ後山東高角ノ東方約二十里ニ向テ
 敵艦損害情況此戰鬪ニ於テ敵巡洋艦中


アスコリックト及ビ戦闘艦ハ何レモ数彈ヲ被リシ
 ヲラ認メ就中四番艦トビストウイートノ如キハ前
 後ノ二橋共ニ折レテ殆ント烟突長ニ留マレ
 ルニ而シテ敵ノ隊形將サニ乱散セントスル数
 分前ヨリ敵ノ砲火大ニ衰ヘタルヲ見レハ各艦共
 ニ莫大ノ損壞ヲ被リタルコト疑フヘクモアラヌ
 本艦損害一彈ヲ受ケ将官室ヲ破壊セシ
 外幸ニ一人ノ死傷ナシ
 發射彈數 十二尹砲 徹甲榴彈 四八
 十二尹砲 徹甲榴彈 七六 計一五四
 六尹砲 徹甲榴彈 三〇
 六尹砲 徹甲榴彈 二八一 四一一
 十二尹砲 徹甲榴彈 六三八

砲ノ故障本艦至近海中ニ落下爆発シタ
 ル敵彈ノ破片前部砲塔左砲身孔罅
 ニ中リ之ヲ破断シ又今時彈片今砲ノ膛中ニ
 入り彈室ヨリ約一米突半ノ所膛面全周ヲ通
 シ巾約一呎半深サ約十ヨリレ傷ヲ生シ其直
 前膛面ニ頭大(深サ約二十ヨリ)ノ傷アリ其也
 数多ノ傷痕ヲ止メ到底使用ニ堪エサルト認ム
 尚ホ是ト今時ニ砲鞍両断セリ是等ノ原因ヲ
 考フルニ將サニ発砲セントスルトキ敵彈ノ破片
 膛中ニ入り彈丸進出ヲ妨ケテ火薬瓦斯ノ
 侵蝕ヲ来シ且談破片ハ彈丸ニ壓セラレ
 面ヲ傷ケツ、出テタルモノナラン右ニ依リ砲身
 砲鞍トモ交換ノ必要ヲ認ム

后部砲塔右砲第十五発目ニ於テフランミンガ
 インハイブレンシヨイニト破断シ直ニ應急處
 置ヲ爲シテ発砲ヲ續ケ尚ホ戦闘后豫備品
 ト交換シ使用差支ナシ
 機関部概況 戦闘ノ令アリタル後速力十四海
 里ヨリ十五海里ニシテ回轉数八十二ヨリ百ヲ上
 下シ機関異状ナク汽力ハ絶ヘズ二百五十所
 ヲ持續セリ
 士氣 戦闘中將校以下兵員一同沈着
 敵艦隊ニ對シテ浴モ教練射撃ノ状態
 ニ於ケルカ如ク彈敵艦ニ命中セバ因ハス歡
 声ヲ洩ラン次ノ彈着ニ注意スルカ如キ各
 自ノ腦裡猶余裕アリ士氣益々旺盛敵

第一艦隊司令長官東郷平八郎殿

艦隊ヲ全滅セサレハ止マサルノ氣慨凡ハ本
 職ノ自取モ欣悦ニ堪ヘ所ナリ
 右概報呈出候也
 明治三十七年八月十三日
 敷島艦長寺垣猪三



敷島艦隊第九六

司令長官

參謀總長

參謀

副官

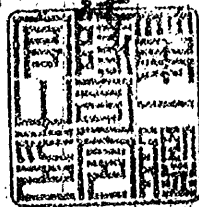
第一艦隊司令長官東郷平八郎殿

右明治三十七年八月十日

明治三十七年九月九日

敷島艦隊長寺垣猪三

進達 九月九日進達



戦闘詳報 巻丹



第九三三

海軍

0482

司令長官



参謀長

参謀

副



五二三子二

別紙軍艦富士戦闘詳報及提出候也

明治三十七年八月十九日

富士艦長 松本



第艦隊司令長官東郷平八郎殿

聯隊機密第九九三〇八

海

軍

0483



司令長官

参謀長

参謀

副官

機密第五二三号

軍艦富士戦闘概報

八月十日
松本富士艦長

一、敵艦隊艦隊番號

- (一) ツレザウイツチ
 - (二) レトビザン
 - (三) プレスビエート
 - (四) ホブリーケ
 - (五) セバストポリ
 - (六) ホルタワ
- 以上戰鬥艦隊ニシテ (一) (二) (三) (四) (五) 番艦ニ將旗如キモノ、掲ゲアルヲ見タリ
- (一) アスコリツド
- ルルシ

(四) (三) (二)

ノービツク

パルラダ

テイヤナ

以上巡洋艦隊ニシテ(一)ニ將旗ノ如キ旗旒ノ揚ルヲ見タリ

二、敵艦隊ハ以上ノ三隊外駆逐艦七隻ト其後尾

ニ病院船一隻トヲ從ハタリ而シテ速力ハ十四海里位

ニカガシ敵艦隊ノ戰鬥艦隊ハ前記ノ艦隊番

号ノ順序ニ單縱陣ヲ以テ航行シ巡洋艦隊ハ其

ノ始ノ戰鬥艦隊ノ後尾ニ順序番号單縱陣ニテ

航行セシガ後其ノ左舷側約一千五百米突ノ

処ニテ艦隊番号ノ順序ニ單縱陣ニテ航行

駆逐艦ハ略ニ隊ニ分シ先頭艦アスコリツドノ

三、

前後ニ縦列ニテ航行セリ
午後六時頃追ニ於テ敵艦隊六隻ノ内主
砲ノ一發砲ヲ中止シ爾來發砲セカリレモノハ四六
番艦ノ前砲塔ノミナリ

四、

午後二時 アスコリッドニ命中其附近火災ヲ起
スモノ如シ

三時三分ハポルタワニ一時火災ヲ起ス

五時四十五分ハツレガーウイツチニ命中スル彈

丸多ク火災ヲ起セルモノ如シ

五時五十六分ハポアトカノ後部マスト切断

六時ハポアトカノ前部マスト切断

六時三十分ハセバストホリニ命中著シ

六時三十分ハポアトカニ命中後艦橋後部

ニ於テ盛ナル火炎ヲ起ス
 六時三十分頃セバストホリノトツゴ後方ニ集中其
 ノ附近一面ノ火トナル
 六時四十分敵ノ一番艦針路ヲ九艦ニ及
 転シ始メ之レヨリ敵ノ陣形大ニ乱シ始ム
 レトビサン 最後ニ各艦ヨリ包圍集弾セシ
 タルトキハ其ノ終リ遂ニ針路及転逃走セントス
 ル時機ニ於テハ彗砲スルト少ナク只左艦後
 部副砲一門ノ彗砲スルモノ如シ
 右ハ主トシテ本艦ノ照準セシ敵艦ノ主要ノ
 出来事ヲ略記シタルニ過キズ
 又デイヤナノ艦首ニブームノ如クモノ前方ニ
 突出シ其ノ形恰モ水雷採取装置ニ似タリ

五、本艦に弾片二個飛来りタルモ損害ナシ

海軍

0488

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

號九一第

八月廿六日

別紙八雲戰鬪詳報第四號之通及報告候也

明治三十七年八月十四日

八雲艦長海軍大佐松本有信



聯合艦隊司令長官東郷平八郎殿

參謀長

參謀

副官

聯合艦隊第九三號ノ三

海軍

0489

千歳機密第九一号

九月十日

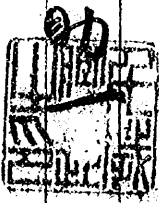
一 明治三十七年八月十日 戦時新聞

時 既跡着及見取着

古提出仕候旨

明治三十七年八月二十三日

千歳艦長 高木



第一艦隊司令長官の重達殿

聯隊機密第九九三号ノ三十

海軍

0490

高橋夕社印刷

戦闘詳報第五號

一敵：出會スル以前我が執リタル方畧々謀知レタ敵ノ形勢

七月二十五日以來旅順口監視ノ任ニ服シタル我が第三戰隊ハ浅間ヲ除キ

前日來ノ如ク八月十日未明旅順港外ニ頭出セリ

午前七時五分港内盛ニ黒烟ノ昇ルヲ見ル八時十分敵艦三隻旅順港内ニ

護山監視ニ從事セル第三駆逐隊來リ會シ八雲ニ報告ス

石田司令報告 今朝七時三十五分ツアレウキツテ出港ス早朝未西港ニ煤

烟ヲ認ム或ハ艦隊出港スルニ非ルヤ不取敢報告ス

八時十五分旗信(一番四番艦内筒砲射撃ヲ止ム)今五十五分第三駆逐隊報

告ヲ終リ監視ノ爲メ北上ス九時二十分(敵ノ主力艦隊見ユ)今三十五

分饅頭山砲臺下ニ三機出煙霧ヲ發シ護山今五十五分(敵艦隊南下セ

十

録

ントスルモノ、如シノ艦アリ十時老鉄山東方、敵艦五六隻見ユ第十六艦隊
近キ来リ左ノ報告ヲ為ス

今港口ヲ偵察スルニ敵艦「ダヤナ」型「ホビエダ」型一隻「ツアーレウキツ」外数隻
出港セリ

十時四分旗信「充分ノ流カラ保テ」今十五分第三駆逐隊當隊ニ近キ来リ
左ノ報告ヲナス

八時頃ヨリ漸時港口ヲ出デ今「シケン」岩ノ東ニ集コリ「ツ」アリ東ヨリ之ヲ数ノ
「レバロトツ」年サン「ツ」アール「ウキツ」「アスコリア」ド「ダヤナ」「バルラダ」ノ「ビック」
「ホルタウ」ニシテ
「ベレスビエー」ト尚港内ニアルガ如シ城頭山下ニ砲艦一隻駆逐艦汽船数
隻出テ掃海ヲナシ「ツ」アリ「ノ」ノ傍ニ数隻ノ駆逐艦ヲ伴ヒタルモノ
、如シ「ル」ケン岩ノ東ニ出タルモノハ餘リ活潑ニ運動セズ他ヲ待テ合ヤ居
ルガ如キ模様アリ察スルニ南下スル準備ヲナシ居ルモノ、如シ

十時二十分右報告終リ駆逐隊艦隊共ニ北ニ向ヒテ去ル

十一時十分 旗信〔右十六點正面変換〕針路東

十一時十八分 敵艦隊ヲ老鉄山下ノ東方濛氣ノ内ニ幽ニ認ム發砲シツ、南東ニ向フモノ、如シ先頭艦ハツエサレウイツケナリ依テ之ヲ旗艦ニ報告ス

十一時二十五分 正西ニ変針原速十哩

十一時三十分 敵艦隊漸次渤海湾ニ向フトノ報據アリ

十一時三十四分 旗信〔旗艦ノ通路ヲ進メ〕

十一時四十分 旗信〔原速十二哩〕西ノ北ニ変針北々東ニ當リ日進々春日ヲ認ム敵ト砲火ヲ交ハツアル如シ敵ニ針路ヲ換ヘ旅順ニ向フモノ、如シ

十一時五十分 旗信〔旗艦ノ通路ヲ進メ〕東南東ニ変針ス

二 戰鬥終始時刻及戰況〔航跡圖参照〕

午後零時十三分 旗艦ニ敵ト戰鬥旗ヲ掲ゲ戰鬥部署ニ就ク時、敵艦隊トノ最近距離

先頭ハツエサレウイツケナリ一乃三千ミレテ其針路約東

ナルガ如シ

敵主戦艦隊ノ序列「ソエナレウヤダ」「レトウイザン」「ホビエタ」「パレスウエト」「ホルタワ」

「セバストポール」「巡洋艦隊「アスコリット」「バルラダ」「ダヤナ」「ノウイック」配遂艦八隻ト

共：列外：アリ又後方：病院艦ヲ隨從セシム（船名不明）

零時十八分南東ノ東ニ変針

零時十九分旗信〔戰鬥部署ニ就キ其場ニ在テ休憩セヨ〕

零時十九分東ノ北ニ変針 東方：我第一戦隊（日進春日ヲ加フ）ノ来ルヲ

認ム

零時三十分敵艦トノ距離九千八百 零時敵ハ南東ニ航スルモノ、如ク「アスコリ」

ト「ダヤナ」「バルラダ」ノ巡洋艦級、其主戦隊ノ左翼ニ就ク爲、左舷ニ轉舵

列外：出ズ

零時四十分敵艦隊ハ左八隻ノ一齊回頭ヲナシ單横陣トナリ又暫クレテ

單縦陣ニ復ス速力約十二哩ト想定ス

零時四十分今迄嚮導アリ「ハビック」ハ左ニ回頭シ他ノ巡洋艦級ト全列

ニ入ル即チ巡洋艦四隻ハ砲火ヲ避ケテ且ツ其駆逐艦ヲ掩護セラルモノナルコト明
カナリ

零時五十五分 旗信〔戰鬥速力十八節〕

一時六分 日進先ヅ其巨砲ヲ一發ス之レ彼我ノ戦端ノ緒ナリ

一時七分 ツエサレウキツケヨリ第一發ヲ發砲ス

一時十分 東南東ニ變針ス

一時十五分 彼我主戦隊ノ砲火盛ナリ第二駆逐隊(?)ハ兩隊ノ中間ヲ横切

リテ北ヨリ南西ニ航過シ来ル第四駆逐隊ハ當隊ノ後尾ヲ離シテ北々西ニ航

シ敵ノ後尾ヲ襲ハントスルノ意ヲ制ヲナスモノ、如シ第六戦隊(明石須磨

秋津洲)ヲ北東ニ見ル

一時二十四分 旗信〔原速十二哩〕ハ雲ニ倣ヒ蛇行ス

一時二十六分 北西ノ西ニ變針

一時三十五分 南西ノ南ニ變針

一時四十分 旗信〔左八真一齊回頭〕

一時四十五分 フツエサレウイッダ 黒烟ヲ揚ゲ 第一戦隊ハ西南西ニ向リ

一時五十分 旗信〔右八真一齊回頭〕 南西ニ変針

一時五十分 旗信〔旗艦ノ通跡ヲ進ノ戰鬥速カ〕

漸次回転ヲ増シ百三十トス

一時五十九分 旗信〔艦隊駆逐隊ハ〕〔敵ノ彈着距離外ニ出テ直ニ運動セヨ〕

二時二分 北イ西ニ変針之レヨリ 敵艦隊ノ後尾ヲ迂回シテ其左側ニ出リ

二時八分 第一戦隊正面ヲ及轉シ暫リ敵ト遠カル砲戦止ム

二時二十一分 北東イ北ニ定針

二時二十九分 北東イ東ニ変針

二時三十五分 旗信〔第四駆逐隊ハ〕〔北ニ在ル敵ノ駆逐艦ヲ攻撃セヨ〕

二時三十七分 八雲右駆逐艦 向ヒニ奔ス 該艦ハ敵ニ非ズレテ味方ノ水雷艦一

隻ニシテ味方信跡ヲ掲ゲ旅順港口ノ方面ヨリ急航シ来リシガ奈砲ニ遭ク

停止ス後我隊ニ加ハル 第四駆逐隊ニ味方ナリト信蹄ス

二時四十五分竹竿及赤塗ノライフイ浮流レ来ル 東ヲ北ニ向フ

二時五十分老鉄山ヲ濛気中北西ニ認ム 主戦隊再ビ砲火ヲ交ユ

二時五十四分高砂ヨリ〔北西ニ敵ノ駆逐船見ユト後然ラザルヲ知ル

二時五十六分敵彈當戦隊附近ニ落下ス 東ヲ西ニ変針

三時四分 北々東ニ北ニ過 岩ヲ認ム 約三哩

三時十分 「セバストポリ」ニ彈丸命中セシモノ、如ク黒烟ヲ揚ケ蒸汽ヲ吹キナ

ガウ遅々トシテ進ム前銃艇「ホルタウ」之ニ近寄り後交互ニ列ヲ換ヘタルモノ、

如シ此時敵ノ病院船ヲ我右舷側ヲ併行ス 北々東陸岸ニ近ク巖島松島鎮

遠和泉ヲ見ル

三時五十分旗信〔右四莫一齊回頭〕南東ヲ南ニ変針敵ノ後尾ニ近寄ル

三時五十分旗信〔左四莫一齊回頭〕

三時五十分旗信〔旗艇ノ通路ヲ進ム〕東ヲ南ニ進ム

三時二十五分 間食ヲ為サレム

三時二十六分 南東ニ東ニ変針 敵ト同航路ニアルモノ如ク 距同約一万五千
之ヲ追蹙ス

三時三十分頃 ヲリ敵彈未ル

三時三十分 高砂信号ノ為リ列外ニ出デ暫クレテ元ニ復ス 二彈八雲傍ニ落ワ

三時四十分 北東ニ変針

三時五十分 八重山單独北西ヨリ来ル 第一戦隊左八雲ノ齊動ヲサセシ如シ

三時五十分 彼我砲戰止ム

四時二分 正南ニ変針 敵ノ後尾ヲ斜走シテ第一戦隊ヲ追フ

四時八分 前後八時砲發射ノ為リ總員ヲ右舷ニ就ケ今二十二分敵ノ殿艇ヲ

打ツ距離九千八百

四時二十五分 南南東ニ向フ

四時四十分 北ヨリ淺間来ルヲ見ル

五時五分 南東ニ変針 第一戦隊、單縱陣トナリテ航行ス

五時十分 羊船ツク食事ニ就カレム

五時三十分 東南東ニ変針

五時三十分 敵ノ針路東ノ北 敵ヨリ架火再ヒ主戦隊ノ砲戦開始

本艇ト敵ノ距離約一カ二千再ビ戦主砲ヲ架砲ス

五時四十分 旗信(第三四五番艇)第一戦隊ノ右側ニ位置セヨ

針路南東

五時五十分 打方待テ

六時四分 フエサレウイツセ取舵ニマワリ却テ己ノ戦列ヲ横切り速カニ進

トナル 巡洋艇「アスコリック」ト「テイヤナ」型引還ス之レヨリシテ敵陣列乱ル最後ノ

「ボルトウ」又及轉ス

六時四十分 針路東ノ南 笠置信号(第二小隊左四隻)齊回頭

六時五十分 笠置信号(第二小隊右四隻)齊回頭 第一戦隊、左舷ニ

廻り常敵ノ先頭ヲ壓迫スルニ努ムル如シ

六時五十四分我八吋砲ヲ発砲ス距離八千乃至一万余突ミシテ常敵船ノ混

集セシ部ニ對シ其最近船ヲ照準スバレスウエトハ前後ノ「アッパー」マスト曲折

シテ重下セシモ抱ワラス我第一戦隊ニ向ヒ突進シ来レ此時該船ノ数多ク我砲

彈ヲ受ケレモノ、如ク屢々黒烟ノ捲揚ルヲ見ル其中引返ス次ニ「ロトビ

ザン」又猛進シ来ル黒烟ヲアゲ引返ス病院船又引返ス敵艦隊ノ暫ク陣形

ノ乱レシ終各船躊躇シ再ビ隊列ヲ整ヘトニ努メ居ルモノ、如クナルモ

我が猛撃ニヨリ運用困難ナルモノ、如ク「ツエサレウ」等「ホル」等ニ取舵ニトリ我

後尾ヲ襲ハントスル如シ

七時十三分 打方待テ

七時二十五分 北東ニ変針 今三十分北々東ニ変針 今三十五分北ニ変針

七時四十分 旗信(第二小隊)敵ノ駆逐船ヲ攻撃セヨ

第一戦隊、單横陣トナリ敵ニ向フ針路北西ナル如シ

七時四十三分 旗信(積船ノ通跡ヲ進メ)但レ八雲第一戦隊ノ追跡ニ入ル

七時四十五分 第一戦隊單縱陣ニ復ス

七時五十七分 北西イ北ニ変針

八時零分 アスコルド「デイヤナ」バルラダ「我」駆逐隊ニ向ケ航行スルヲ以テ之ガ
援護ノ爲メ南南西ニ変針 其時已ニ第六戦隊「アスコルド」ト砲戦中ナリ
「デイヤナ」「バルラダ」ハ引返ス「ハビック」ハ「アスコルド」ニ從ヒ共ニ南下ス

八時八分 アスコルドニ向ケ砲撃ス 距離八千米突次デ「ハビック」ニ向ケ砲撃
距離七千乃至八千米突次ニ南東ニ変針

八時十五分 針路南西イ南ナリ
八時二十分 八吋砲打方止メ

八時三十分 西南西ヨリ敵ノ駆逐艇来リシガ時已ニ暗クシテ明視セズ之
ヲ見失フ 戰鬥旗ヲ下シ正南ニ変針

三、敵ノ艇名及數

0501

敵艇隊ノ序列ニ「ソエサレウイッテ」「レトウイザン」「ポバータ」「プレスウエー」「セバヌト
ボリ」「ボルト」以上戦艇六艘「アスエルド」「アビック」「テイヤナ」「バルラダ」以上巡洋艇
四隻合計十隻駆逐艇八隻別ニ病院艇一隻ヲ伴フ船名不明

四、戰鬥終結後ノ運動及敵情

八時三十分正南ニ変針 全三十二分東南南東ニ変針

八時三十分水雷艇防禦配備

八時四十分東ニ変針 船内ニ直哨兵ヲ配備ス

九時五十分第六戦隊ヲ南ニ見失フ司令塔内ノ操舵ヲ止メテ船橋ニ之

ヲ移ス

九時三十分最島ヨリ「敵ニ渤海湾ノ方面ニ向テ急ニ感ズ

九時三十分(八雲)午後十時南東十時三十分原速十四哩

十時六分南東ニ変針

十一時八分南南東ニ変針

十一時四十分 旗信(零時三十分原速十二哩)

十一時五十分 三笠旗信(我地真一四七五に至り明日引返す)

十一日

午前零時三十分 原速十二哩トナス

九時四十分 西ノ北ニ變針哨兵ヲ撤ス

六時二分 西ノ南及西北西ニ北ニ煤烟ヲ認ム

六時十五分 高砂西ノ南ノ煤烟ニ向ヒ列外ニ出ス

(明石電) 敵ノ巡洋艦一隻「アスコリッド」見ユ地真六一八南南東我追

撃中

六時二十五分 北ニ變針

六時三十四分 旗信右十六真正面變換

六時三十七分 旗信原速十四哩

六時半六分 旗信左十六真正面變換高砂列ニ入ル

七時零分 旗信原速十二哩

七時四十分 旗信搜索列第一配列ニ準レ三番四番船ハ本船ノ左五番船ハ本船ノ右間隔五哩本船ハ絶ヘズ今ノ速力ニテ進航ス各船便宜速カラ増シ配置ニ附ケ針路北今ヨリ搜索配列ニ附ケ

右別紙山本河野兩少尉候補生見取回相添ヘ及報告至也

明治三十七年八月 日

千歳船長高木助一

第一艦隊司令官出羽重遠殿

0504

戰鬥詳報第五號附錄

軍艦千歲兵器消費表

砲種	區分	彈種		合計	記事
		徹甲榴彈	鍛鋼榴彈		
中或八甲速射砲		一八	三〇	四八	
今 常裝藥		一八	三〇	四八	
中或十二洲速射砲		一	五	六	
今 常裝藥		一	五	六	

備考

海軍

黃濱社印刷

0505

戰蹟詳報第五 附錄

軍艦千歳死傷者人名表

戰死

重傷

輕傷

記事

配置官職 姓名 職名 職名 職名 職名

右舷 長谷川 瀧崎 喜三郎 左右 鼓腰 丸 友

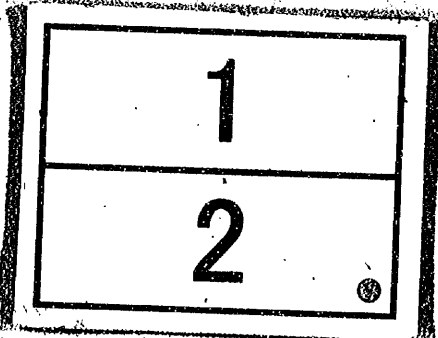
左舷 長谷川 田中 市 友

0506

八月十日見取繪印書入

0507

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

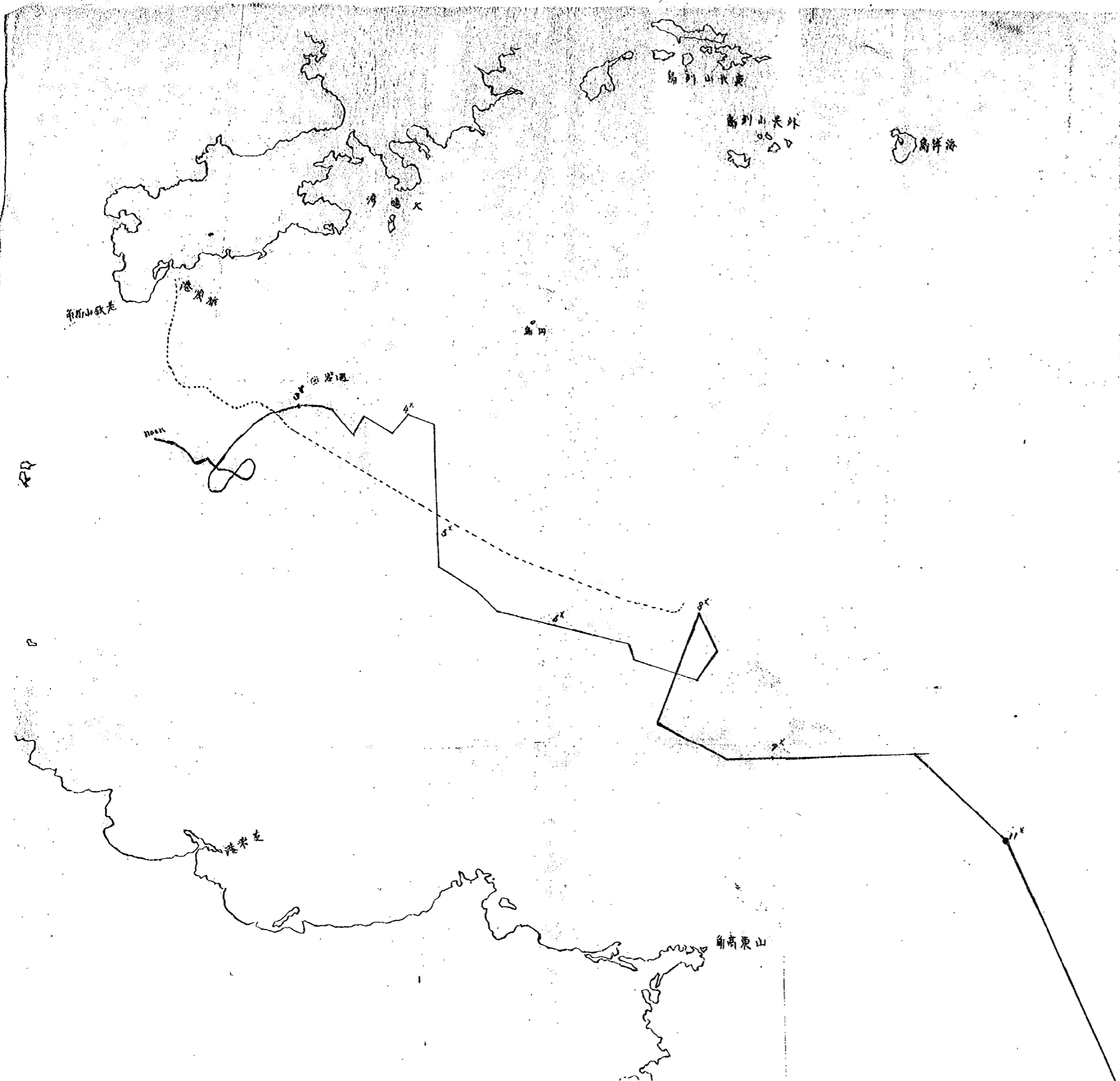
0508
0509

戦門詳報第五册附録

八月十日午歳航跡圖

(海軍海圖部第三册八六度)

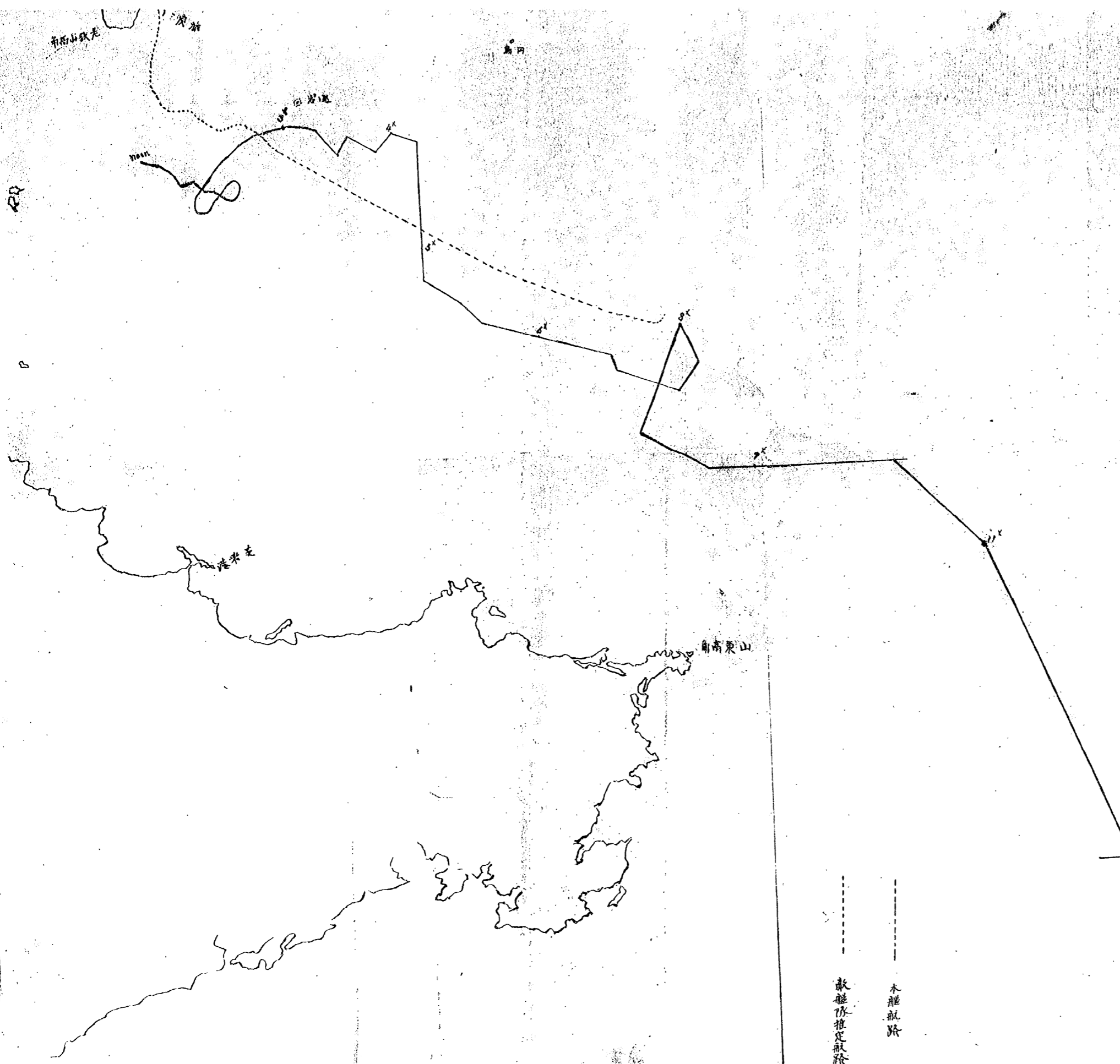
島群青大



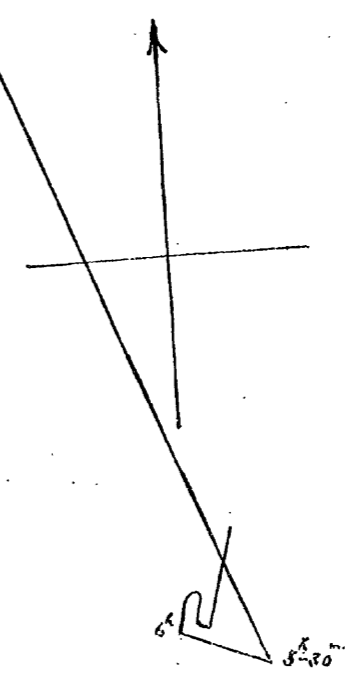
五册附録

十載航路圖 (海軍海圖部編纂 第八度)

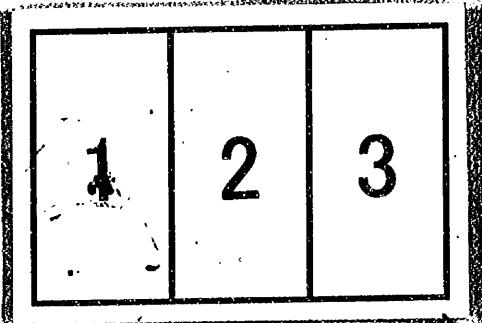
大青群島

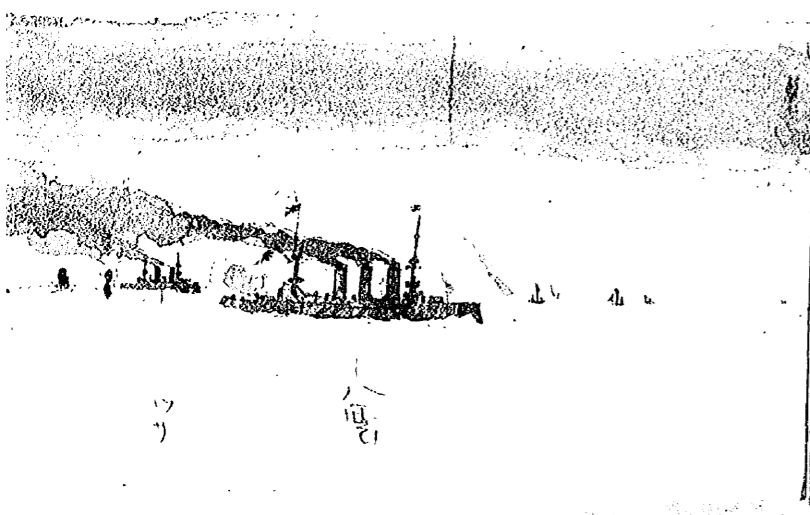


敵艦隊推定航路
木艦航路

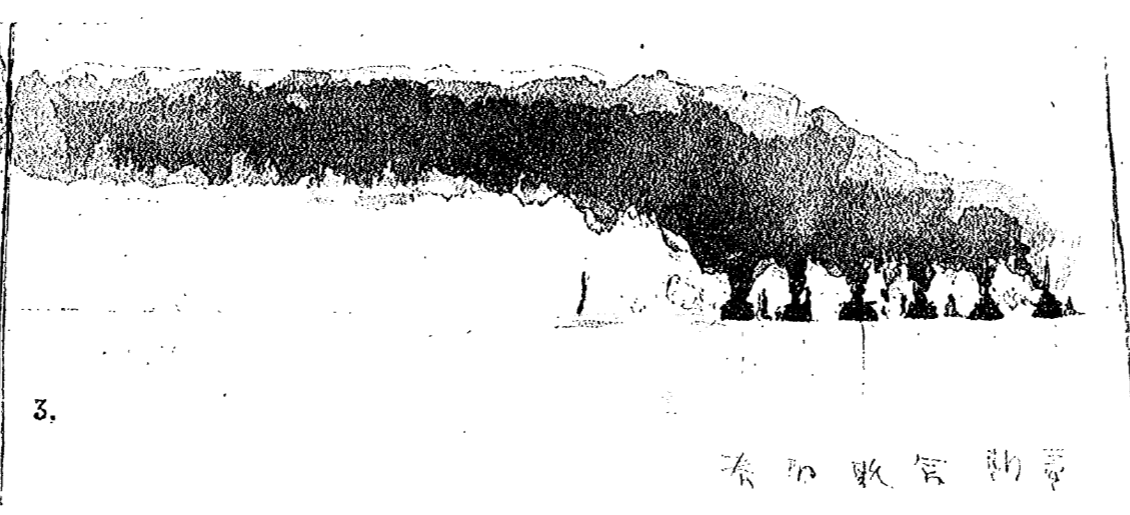


分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

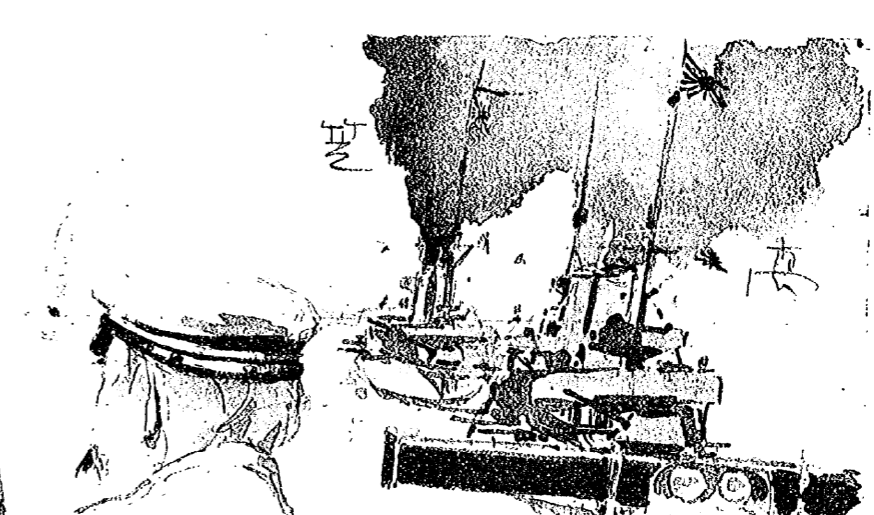


17
7
八
二



3.

泰加 取官 勅等



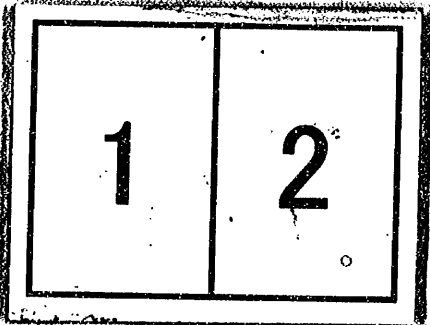
世

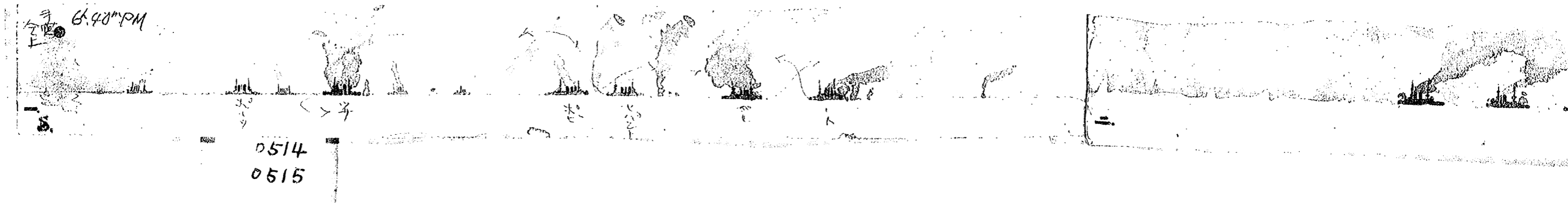
其

年表
教陳明
1. 前ノ大激戦
2. 3. 續久

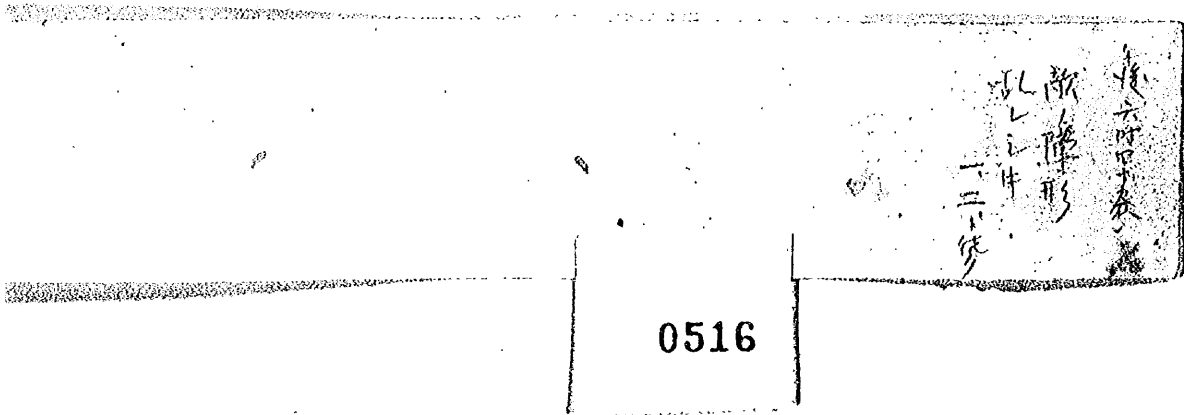
0513

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	







敵状ハ昨日ト異ナル所ナリ本隊炭水大ニ欠乏ス

ツキヲカスルニ三行ヲ補充ス直レキヤ

依テ直レト答ヘ同時日進春日ニ會シタヘテ

日進ニ右報告ヲ要領ヲ信考ス

一其地異状ナリ

右報告矣也

明治三十七年八月十三日

笠置艦長井手慶六



第艦隊司令長官東洋平八郎殿

海軍

0517

Table with multiple vertical columns, likely a ledger or record book. The table is mostly empty, suggesting it is a blank page or a page with very faint or illegible content. The columns are separated by thin vertical lines.

廣島高校

洋

生

0518

車

報告

昨十日海開、分離以後監視中、艦隊ヲ得タル
報告者、如シ

一昨日午後二時半、才二十艦隊司令報告

一本隊、昨日日没後敵艦隊ヲ追跡襲撃シ

ガヤナ型及ツツガレ井ツツ、対シ水雷八何ヲ発射セシ

モ結果不明、某負、艦隊異状ナシ、委細ハ詳

報各艦共水雷、補充ハ終レリ

一今朝老鉄山ヲ南西十哩、地点、於テ独ニ没

航一隻ヲ撃沈セシ、該艦ハ芝罘ヲこシテ昨

日午後一時半、莊ヲ突シ芝罘ニ向テモナリ

0519

積荷ハ更汝絲並ニ茶葉ナリ乗組人ハ船
 長ノ外支那人ナリ別ニ怪カキ点ナキヲ以テ解
 救ヲ乗組支那人ノ言ニ依レハ遼陽ヨリ本
 庄ニ至ルナリ清軍ノ処ニハ日本兵及教アリ
 敵状ニ就テ得ル処ナレシ亦シウリ午ニ煤炭ノ
 字真ヲモツ有ニ居レリ又今朝鳩渡沖ニ於テ
 同渡ヨリセテタンゴジャヤノ三隻撞接セシニ皆様
 順方面ニアリタニ避難支那人ニシテ別ニ異状ナ
 キヲ以テ釈放セリ支那人ニツキ敵状報ヲ得レト
 セシモ皆知ラサリシ

一本日午前十時炭水補充ノ為ニ第三也点ニ停港
 途次遇岩附近ニ於テ第十四艇隊司令報告尤
 如シ

廣島高城納